いまこそTACだ!!

Ⅱ TAC間のコミュニケーション強化とJAのスケールメリットを活かした担い手支援の取り組み

西村 聡司（にしむら さとし）

滋賀県・JAレーク滋賀 営農戦略部 TAC推進課

※本稿は2024年11月に行われたTAC・出向く活動パワーアップ大会での発表より構成しています

JAレーク滋賀の概要

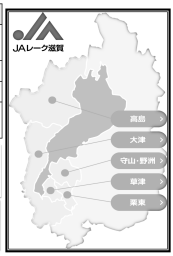
令和３年４月に滋賀県内の６市、旧８JAが合併して当JAが発足しました。

琵琶湖という豊富な水資源と温和な気候が稲作に適していることもあり、近江米や様々な農産物の産地として農業が盛んに行われている地域です。

令和３年4月に滋賀県内の**６市、旧８JAが合併して「JAレーク滋賀」**が発足。
「琵琶湖」という豊富な水資源と、温和な気候が稲作に適していることもあり、
近江米や様々な農産物の産地として農業が盛んに行われている。

項　目	内　容（R５年度末現在）
組合員数	正組合員：１９，１４７名 准組合員：３７，７９８名
販売品販売取扱高	９，２３６百万円
購買品供給取扱高	５，０５２百万円
主な農産物	米、麦、大豆、メロン、スイカ、マクワ イチゴ、柿、イチジク、ハウス野菜など





１．TACの配置状況

令和３年４月の合併時にTAC推進課が設置され、令和６年度で４年目を迎えました。職員数は、専任TAC10名と課長１名の計11名で構成され、各地区統括および各営農経済センターに配置されています。定期訪問先として、担い手を中心に32件を設定しています。

活動内容は、定期訪問農家への情報提供や恒常的な訪問活動、購買・販売事業に関する個別提案型の推進活動、農家所得向上のための経営指導・経営支援・リスク管理支援などに取り組んでいます。

２．JAレーク滋賀における課題

管内における課題として、担い手の高齢化、後継者問題、資材費の高

騰や米価不安定による収支悪化などがあげられます。また、合併当初の組合員からは「合併したスケールメリットを感じられない」「合併しても旧JA単位を超えた取組みができていない」という意見が寄せられていました。

TACの課題として、１つ目がTAC職員の知識や経験の差があることです。合併前からTACが設置されていたのは２JAのみで、TAC経験者が少なく、広域合併ゆえに知識や経験の差が旧JA職員間であったため、活動内容にムラが出ていたという状況でした。

２つ目はTAC職員間のコミュニケーション、連携不足です。管内エリアが広域ということもあり、地区統括および各営農経済センターに配置されているため、合併間もないことやコロナ禍も重なり、TAC職員間のコミュニケーションが図りにくく、先輩からの指導や助言、TAC間の連携や活動に対する意思統一が取りにくい状況でした。

私も令和４年度までTACとして現場で活動していた時はこの点について悩み、なんとか改善したいと思っていました。

３．課題解決に向けて

このような現状を踏まえ、地域農業が抱える課題を解決するためには、TAC間のコミュニケーションや連携の強化を第一に実施し、あわせて関係部署、関係機関との連携といったJAレーク滋賀一丸となることが必要だと考え、令和５年度は「連携」という言葉を意識した取組みを実施しました。

まず１つ目は、TAC間のコミュニケーションの強化です。令和５年度から新たに、地区別チーム体制を設定しました。TAC職員10名を隣接する地区同士で３つのチームに編成し、コミュニケーションや連携強化、先輩からの助言や指導などの人材育成に取り組みました。また、チーム編成と合わせて、毎月チームミーティングを開催しました。編成したチームごとに毎月実施し、地区ごとに日々のTAC活動の取組み確認、日ごろの悩みや課題解決の相談、様々な取組みの進捗状況の確認など、各チームの状況にあわせたミーティングを実施することでTACが一人で悩まない体制づくりを行いました。また、TAC間のコミュニケーション強化や自発的な発言・発案をめざしているため、毎月のTAC月例

会議のように、役員や関係部署の管理職などは参加せず、後日 TAC の管理職が報告する形としました。

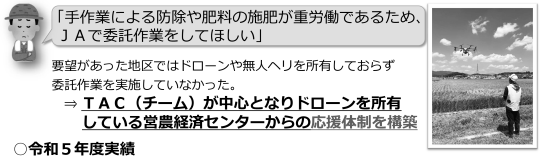
次に、地区別にチームを編成するにあたり、担い手や組合員からの要望や地域農業の課題解決に向けて、各チームで取組み目標を設定しました。テーマ設定に当たり、合併前の旧 JA が持っている良いところを活かすために壁を取り払うことを目的に、チームでの連携とあわせて、各営農経済センターや関係部署・関係機関との連携を意識した取組みを企画しました。

4．具体的な取組み内容

⑴　ドローンを活用した新規防除・施肥委託作業への取組み

農家の方々からは、「手作業の防除や施肥が重労働のため、JA で委託作業をしてほしい」という要望をいただきました。しかし、要望があった地区ではドローンや無人ヘリを所有しておらず、委託作業を実施していなかったため、TAC が中心となりドローンを所有している営農経済センターからの応援体制を構築し、新規の防除や施肥の委託作業を実施しました。

令和５年度の実績として、水稲・大豆・園芸の防除、麦の施肥で144.5haの実績を上げることができました。また、取組み結果として、ほかの地区でも防除・施肥の要望が多く出ているため、今後さらなる規模拡大を見込んでいます。また、TAC から新たに３名がドローンの操縦資格を取得し、センターと連携して作業に当たっています。



ドローンを活用した取組みの概要

⑵　地区をまたいだ担い手同士の交流

農家の方からは、「自分の地区以外の生産者と意見交換や情報交換などもっとコミュニケーションを取りたい」という要望がありました。これに対し、広域合併のスケールメリットを活かすべく TAC が調整役と

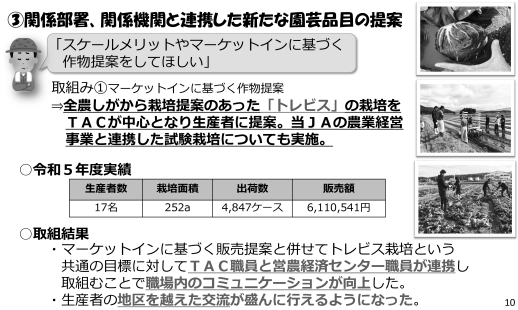
なり、生産者の農業に関する知識やモチベーション向上、広域での生産者同士のコミュニケーション向上やネットワークの構築を目的とした取組みを実施しました。

令和５年度では集落営農法人を対象とした情報交換会の開催や各部会の研修先として他地区の視察を受け入れ、個々の生産者の現地視察のマッチングなど、意見交換会・視察研修を計９回行いました。地区をまたいだ生産者同士の交流が盛んとなり、共通の作物に対する情報交換や農機の貸し借りなど助け合いのネットワーク構築につながりました。

⑶　関係部署、関係機関と連携した新たな園芸品目の提案

「スケールメリットやマーケットインに基づく作物提案をしてほしい」という要望に対し、JA 全農しがから栽培提案のあった「トレビス」の栽培を TAC が中心となり生産者へ提案しました。また、当 JA の農業経営事業と連携した試験栽培も実施しました。

令和５年度の実績は表のとおりです。結果として、マーケットインに基づく販売提案とあわせてトレビス栽培という共通の目標に対して、TAC 職員と営農経済センター職員が連携し取り組むことで、職場内のコミュニケーションが向上しました。また、共通の栽培品目を通して生産者の地区を超えた交流が盛んになりました。



トレビス栽培の概要

次に、TAC と特販課が連携し、生産者へ販売提案やニーズを踏まえた栽培提案を行いました。令和５年度の実績として、27品目を提案しました。TAC と販売部門が連携することで、生産者の販売力強化や農家所得の向上につながり、生産者の JA に対する信頼の向上や、旧 JA 単位では取り組むことができなかった販売戦略などを通じ、スケールメリットを感じてもらったと思います。

このように各 TAC でチームを中心として関係部署や関係機関と連携した取組みを実施したことにより、いままで取り組むことができなかっ

た新たなことにチャレンジすることができました。

５．TAC の目標管理およびレベルアップにむけた取組み

１つ目が活動の目標管理です。TAC が年間の活動目標を意識して取り組むため、年間目標管理シートや地区別目標管理シートなどを活用し、目標数値や課題解決に対する進捗状況をミーティング時や個別面談時に確認することとしました。結果、各 TAC が目標意識を持った活動にできました。

２つ目が他 JA との意見交換です。TAC 職員の知識向上や情報共有、県内 TAC とのネットワーク構築強化を目的に、JA 東びわこの意見交換会を実施しました。はじめての試みでしたが、当 JA の TAC にとって大変良い刺激となり、モチベーションの向上につながりました。今後も継続して取り組んでいきたいと思います。

これらの取組みにより、TAC 担当者のレベルアップや自発的な企画立案につながっていると感じています。

６．取組みの実績と今後の展開

令和３～５年にかけ、販売高は JA 全体の数値が増加傾向にあり、購買高は TAC 対象担い手の数値が年々増加しています。

今後の展開として、当 JA の TAC は様々な取組みにチャレンジしていきたいと考えています。

⑴　チーム取組みのさらなる連携拡大

ドローン・無人ヘリの委託作業については、令和７年度までに470ha への拡大をめざしています。令和６年度の計画では220ha としていましたが、令和６年９月末時点で258ha の実績となっており、新たに２名

○ＪＡレーク滋賀販売・購買実績　（百万円）

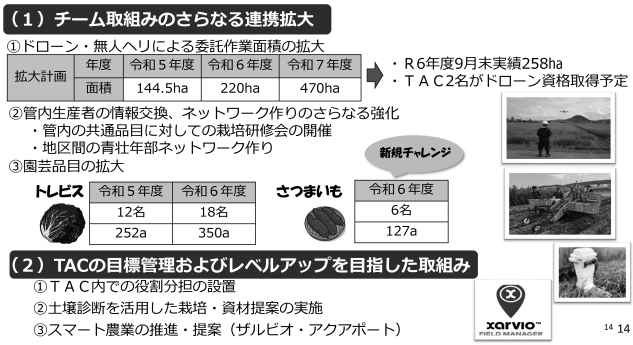
実績数値		令和3年度	令和4年度	令和5年度
販売高	ＪＡ全体の実績数値	8350．1	8101．9	9236．2
	対象担い手の実績数値	2195.4	2684.6	2601.6
	対象担い手の割合	26.3%	33.1%	28.2%
購買高	ＪＡ全体の実績数値	4848．5	5139．7	5052．6
	対象担い手の実績数値	823.4	964.8	1064.7
	対象担い手の割合	17.0%	18.8%	20.7%

・**販売高**は**ＪＡ全体の数値実績が増加傾向。**
・**購買高**は**ＴＡＣの対象担い手の数値実績が年々増加。**

取組み実績

のTACがドローン資格取得を予定しています。

また、管内生産者の情報交換、ネットワークづくりのさらなる強化として、管内の共通品目に関して栽培研修会の開催、地区間の青壮年部のネットワークづくりも今後強化していきたいと考えています。



今後の展開

そして園芸品目の拡大として、令和５年度から取り組んでいるトレビスについては、令和６年度の生産者・面積ともに拡大しています。また、さつまいもを新たなトライアル品目として取り組んでいます。

⑵　TACの目標管理およびレベルアップをめざした取組み

令和６年度では新たにTAC内での役割分担を設置し、それぞれの実績向上に向けた取組みの企画を立案しています。また、土壌診断を活用した栽培・資材提案の実施、スマート農業の推進にも力を入れて各TACがチャレンジしています。

7．全国のTACの皆さまへ

農業を取りまく環境が大きく変化するなかで、TACに対する重要性や責任も大きくなり、新たな取組みにもチャレンジする必要があります。

TAC職員には失敗を恐れず、新たなことにチャレンジして地域農業の未来を担い手と一緒に築いてほしいです。さらに、TACはJAの花形的存在になってほしいというのが私の目標です。

今回は当JAの連携を意識した取組みを発表させていただきました。今後は同じ地域の農業を支えていく立場として、全国のTACのみなさんと連携した取組みをしていきたいと思っています。今後も全国のTACのみなさんと一緒に連携してTAC活動を盛り上げていきましょう。